

『みんなの“Well-Being” from 母子小学校』

本校は、「ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる児童の育成」を学校教育目標に掲げ、ふるさと母子の地域教材を活用しながら人間力を高め、『生きる力』を育む教育活動を推進しています。また、阪神間唯一の完全複式学級、へき地指定の学校であり、その少人数と山間部の地域性を強みとしてとらえ、子どもたちが「母子で学んでよかった」「ふるさと母子は素晴らしい」と母子を誇りに感じられるよう教育内容の充実を図っています。学校教育活動全体を通して、母子の特色を生かした教育、家庭や地域と密接に連携した教育に取り組んでいる学校です。

教育課程では、

- ・『子どもの深い学びをめざしたつなぐ力の育成
～子どもがつくる算数科学習を通して～』を研究主題にした算数科教育
- ・個人の技と集団で演技を創る全校一輪車運動
- ・地元の伝統を受け継ぐ母子神楽

を三本柱として位置付けています。そして、この三本柱の取組と四季折々の母子の特色を生かした素材を基にして、保護者の皆様や地域の皆様のご支援をいただきながら取り組んでいる母子オリジナルの教育活動を「母子プラン」と名付け、実践を積み重ねています。本校が発行する冊子「母子の教育」は、「母子プラン」にもとづいて推進してきた取組をまとめたものです。

本校は平成24年度より小規模特認校制度を導入しています。現在、全校児童11名のうち9名の児童が制度を利用し通学しています。今後も特認校生が増えることが予想されますが、母子プランはしっかりと継承していきます。

今年度4月の初めに児童へは、『みんなの Well-Being (ウェルビーイング) from 母子小学校』を目指そう！』と話をしました。『みんな』とは、まずは、本校児童のことです。日々の学校生活や学習の中で、子どもたち同士の関わりや児童と教職員のつながりを通して一人一人の笑顔を育みたいと考えています。そして、その笑顔の輪が、保護者、地域の皆様へと広がり、やがて、世界中のだれもが Well-Being (幸せな状態) を実感できるようになることを目指していきます。

教職員が一丸となって、母子の良さを生かした教育活動「母子プラン」をさらに推進し、実践を通してたくさんの人々の Well-being を育み、子どもたちが未来への道を切り拓く力の素地になればと願っています。

三田市立母子小学校
校長 阿部 恭大